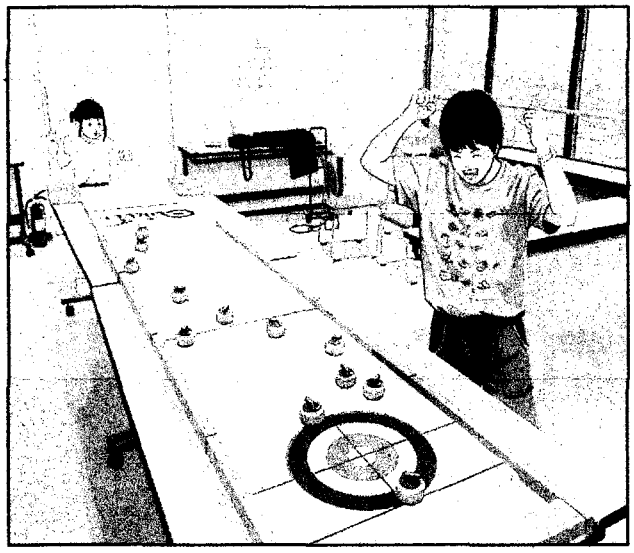
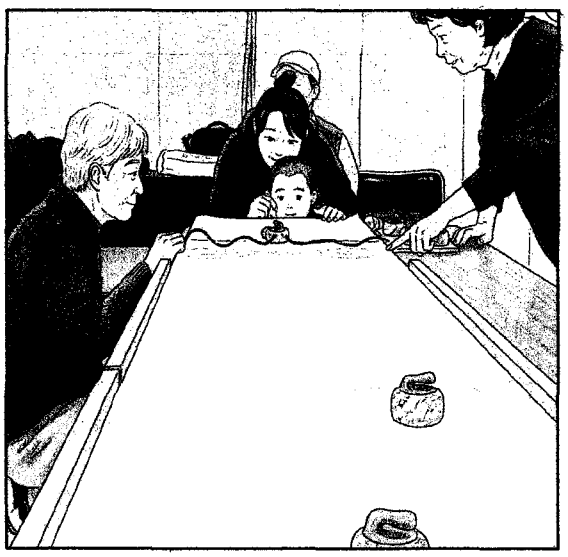
小手指カーレットクラブまぜこぜ
体験会参加者を募集しています

「カーレット」は誰でも楽しく参加できて、互いにつながりをもつことができるゲームです。このたび、小手指カーレットクラブは狭山カーレットクラブまぜこぜの支部として発足しました。体験会参加者を募集しています。
ぜひ、参加してみませんか。体験会の実施日時と場所は次の通りです。

実施予定日時・会場		
~~6月15日(月)~~	~~午後2時~4時~~	~~小手指まちづくりセンター本館 学習室1~~
6月20日(土)	午後2時~4時	小手指まちづくりセンター本館 学習室4
7月6日(月)	午後2時~4時	レジデンシャル小手指Sakura 地域交流室
7月25日(土)	午後2時~4時	小手指まちづくりセンター本館 学習室4

参加方法： 申し込み不要、直接時間までに会場にお越しください。
費　　用： 特別な費用は必要ありません。
服　　装： 動きやすい服装でお越しください。





カーレット： 卓上でカーリングのようにチームで得点を競うゲームです。年齢、性別、障がいの有無等に関係なく、誰でも参加できるユニバーサル・スポーツです。

まぜこぜ： 会の名前「まぜこぜ」とは、いろいろなものが混ざり合っている状態を意味していて、どのような方でも一緒に楽しめるスポーツであることに由来しています。

協力：小手指地区地域福祉サポーター

連絡・問い合わせ先：090-7507-1783（稲葉裕；いなばゆたか）
藤吉 TEL 080-1891-3647

カーレット 多世代つなぐ

体力不要、戦略性の高さ魅力

用具15台無償貸し出し

▲秩父市　▼神奈川・開成町

児童が体験ブース企画

卓上のカーリングと呼ばれるニュースポーツの「カーレット」に親しむ人の輪が関東で広がっている。体力を必要とせず誰でも楽しめる点が魅力で、お年寄りと子ども、健常者と障害者が一緒に専用マットを囲んで夢中になっている。世代を超えた住民らの交流促進に一役買っている。

「ここを通そう！」。5月9日、神奈川県開成町の福祉会館に60～80代の15人程度が集まり、柿の実サイズのストーンを投げ合った。白熱した試合となり、狙い通りの位置にストーンがいくと歓声が上がった。

カーレットは2012年に日本で生まれたスポーツで、氷上で競うカーリングを卓上で再現した。長さ3㍍60㌢、幅60㌢のマットを長机などに置き、直径34㌢の円の的（ハウス）をめがけ小さなストーンを投げる。2チームに分かれ、1投ごとに攻守交代する。

福祉会館で競技に興じていたのは、開成町や南足柄市、大井町といった神奈川県の西湘エリアで活動する愛好団体「カーレット神奈川西湘クラブ」のメンバーだ。60～80代の27人が所属し、毎週土曜日に活動している。

クラブの事務局を務める中野千帆さんは「足の不自由な会員もいる」と話す。「カーレットの魅力は障害の有無に関係なく誰でも楽しめることです」。2カ月に1■程度、近隣の障害者施設に出張して体験会を開いている。

マットの長さを短くしたり、床に置いたりすれば子どもも競技に参加できる。カーレット神奈川西湘クラブは25年、開成町の小学校に出張授業し児童に体験してもらった。興味を持った児童は多く、町のイベント「かいせいスポ・レクフェスティバル」に向け企画した体験ブースを出展したという。

カーレットの間口は広いが、勝つには戦略性が求められる。ハウスの中心の最も近い位置にストーンを置くため、相手にはじかれないよう壁をつくるなど綿密な作戦が要求される。この作戦を考える楽しさにはまる人が多い。

競技の普及をめざすNPO法人「カーレットジャパン協会」が年1回開く全国大会で、26年に初めて優勝した神奈川西湘クラブのチームメンバーは「最後まで結果がわからず、理解すればするほど奥が深い。楽しみながら練習してうまくなりたい」と話す。

東京都江東区で活動する「江東カーレットクラブ」はウクレレサークルから派生して24年に誕生した。クラブを運営する秋本優子さんは「ゲーム展開の先を読む緻密な戦略が必要で、すっかり魅了された」という。

イベントを開くと、初対面の人同士が和気あいあいとゲームを楽しむ光景をよく目にする。お年寄りと子どもが一緒になってゲームに打ち込む姿をみると、秋本さんはうれしい気持ちになる。「カーレットは多世代をつなぐ素晴らしいツールになる。江東区に様々な年齢層のチームをつくり、世代を超えて交流できる大会を開きたい」と話す。

埼玉県秩父市は、地域包括支援センターが所有するカーレットの用具15台を無償で貸し出している。ゲームをするのに用具を一通りそろえると20万円程度かかる。市内の自治会や老人会が気軽に親しめるようにレンタルを始めた。支援センターによると、25年度は延べ165人が利用し、イベントが182回開催された。

高齢者の体力づくりやフレイル（虚弱）予防、居場所づくりに活用されているという。カーレットを通じて小学生と交流する動きもある。

普及に向け支援センターは毎年、24チームを集めた交流大会を開く。担当者は「大会は年々レベルアップしている。各チームが戦略や作戦を練ってきて、試合時間が長くなっている」とうれしそうに話した。（竹内紘雅）

埼玉県秩父市で年に1回開催される交流大会＝地域包括支援センター提供

「ここを通そう」と作戦を立ててストーンを投げる（9日、神奈川県開成町）

ハッシュタグ #hashtag

#カーレット　氷上のスポーツ「カーリング」を卓上や床の上で手軽に楽しめるようにしたニュースポーツ。重さ約30㌔のストーンを滑らせ、的の中心へ近づける。カーリングの「カー」と小さいを意味する「レット」を合わせた造語から生まれた。

相手のストーンに自分のストーンをぶつけてはじく爽快感、ビリヤードのような戦略性にはまる人が多い。